



若林 健史 先生

略歴

1982年 日本大学松戸歯学部卒業
若林歯科医院勤務（東京都練馬区）
1989年 若林歯科医院（東京都渋谷区）開院
2014年 渋谷区恵比寿南に移転
2016年 オーラルケアクリニック青山（東京都港区）開院
【主な学会活動，研究活動など】
日本大学客員教授
日本歯周病学会理事・専門医・指導医
日本臨床歯周病学会・認定医・指導医
米国歯周病学会会員
日本顎咬合学会会員
日本抗加齢医学会会員
アンチエイジング歯科学会常任理事
日本大学細菌学講座非常勤講師
日本大学松戸歯学部歯周治療学講座非常勤講師
鶴見大学歯学部歯内療法学講座非常勤講師

初診・歯周基本治療からメンテナンスまでの モチベーション維持を考える

東京都開業
若林 健史

近年、歯周病と全身疾患の関係が明らかになるに連れて、歯周病の治療を主訴として来院する患者さんが増えています。我々にとっては大変喜ばしいことですが、歯周治療を行うためには初診から治療中さらには、治療終了後のメンテナンスにいたるまで、スタッフ全員の連携によるチームアプローチが重要になり、医院全体のレベルアップが必要となります。

受付は患者さんが初めて出会う医院の顔なので、初診時の対応一つで医院のイメージが作られます。歯科助手は治療中の患者さんに気配りをして、安心して治療が受けられるように務めなくてはなりません。また歯科技工士は歯周治療によって得られた健康な歯周組織を、長期にわたり維持増進していけるような清掃性の良い、メンテナンスし易い補綴物を作製しなければなりません。

中でも歯科衛生士は歯周基本治療の中心を担い、その出来いかんによっては歯周治療の成功、不成功に直接的に関わって来るとも重要な役割の一つです。どんなに素晴らしいスケーリング・ルートプレーニングの技術を持っていても患者さん自身がおこなうブラッシングが的確におこなわれ、継続できなければ歯周治療は不成功に終わってしまいます。そのため歯周治療にとって最も重要なことは、どのようにして患者さんのモチベーションを高めるのかまた、高まったモチベーションをどのようにして長期的に維持するかだと思います。

初診時の患者さんのモチベーションを高めるためにはしっかりとした歯周組織検査をおこない、得られた資料を分析・診断しわかりやすくカウンセリングをおこなうことが重要です。歯周基本治療中には途中で挫折し治療が中断しないようにすること、そしてメンテナンスに入ってから毎日のホームケアを怠らず長期間にわたりブラッシングを継続する気持ちを持ち続けてもらうようにすることです。

今回は歯周治療を進める上で、患者さんのモチベーションアップのためのカウンセリングをどの時点でどのような方法で行うのが効果的なのかまた、歯周基本治療中からメンテナンスに至るまでモチベーションを維持させるためにはどうしたら良いのかを、当医院を例にとりご紹介しながら、楽しく明るい未来のある歯科医院づくりについて考察してみたいと思います。